『 こだわりの家は、地盤からこだわりたい。』

① 液状化は、“ゆれの長さ” と “ゆれの強さ” から

≪ 液状化が発生するメカニズムをご存知でしょうか？ ≫

液状化は水分を含んだ砂質地盤が、地震の強い衝撃を受け、砂粒バランスが崩れることで発生します。

今回の東日本大震災での液状化の被害は、危険度が低いと認定されていた地域でも発生しており、この一因と考えられているのが、「ゆれの長さ」です。

阪神大震災では、震度6～7で液状化が発生。そのゆれの長さは、約15秒間だったのに対し、今回の震災では震度4～5の場所でも液状化が発生し、そのゆれは1分間程度続きました。

② 住宅の安全は、ランドガードが地盤から支えます

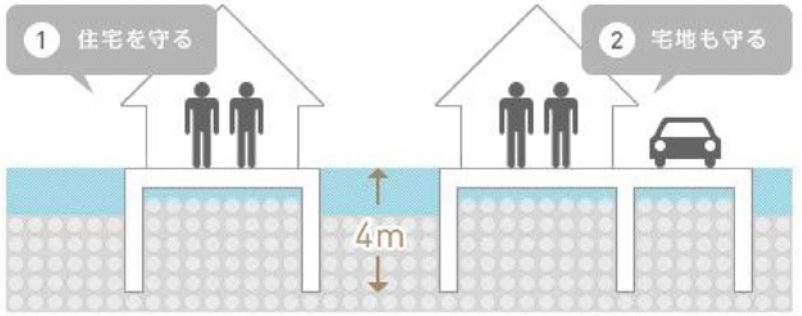
≪ ランドガードは、あなたの家の地盤変化や
液状化から守る住宅地盤耐震工法です ≫

いくら家の耐震を徹底しても、それを支える地盤がしっかりしていなければ、その機能を十分に果たすことはできません。

見落しがちですが、耐震とは地面の上はもちろん、その下までも考えることなのです。

ランドガードは、あなたの家を守るための地盤に対する耐震工法です。

③ あなたの家にぴったりのランドガードを



≪ 2つのタイプのランドガード ≫

ランドガードの導入には、大きく2つのタイプがあります。

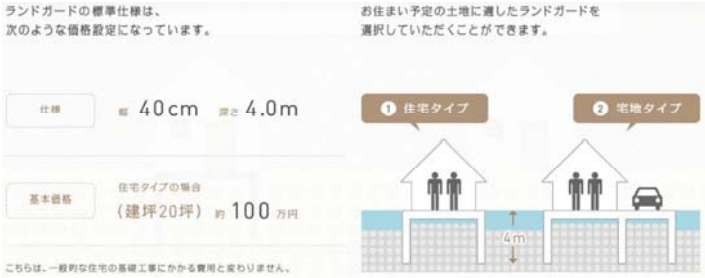
『住宅を守るもの』と『宅地全体を守るもの』。

また、ランドガードは住宅基礎の役割も果たすため、かかる費用は一般的な住宅基礎工事と変わりません。

④ ランドガードの標準仕様価格

≪ ランドガードの価格設定 ≫

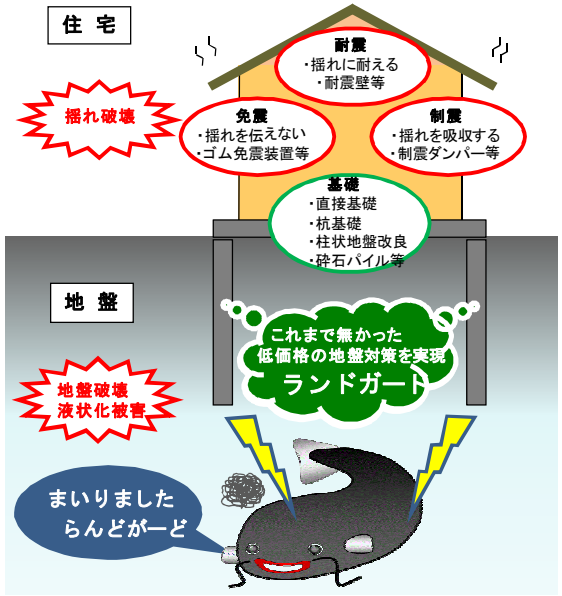
ランドガードの標準仕様（住宅タイプ）は、次のような価格設定になっています。



また、地中で自由自在な形状につくれるため、お住まい予定の宅地に合わせて、最適なランドガードをセレクトすることでができます。

『 住宅は、ランドガードが支えます 』

地震による住宅被害と対策



ランドガードの着眼点

◆ 新潟県中越地震の建物被害調査では、「地震動による被害」の他に「地盤変状による被害」が多く見られました。

◆ 東日本大震災では「液状化による傾き被害」が多く見られました。

◆ 戸建住宅の建物自体は丈夫になり地震動による被害は少なくなっています。

◆ 建物の揺れや地盤変状を「制する工法」は、戸建住宅の域を超える費用が掛かります。

一緒に揺れても　　地盤変状が小さければ

ランドガードとは・・・

住宅地盤を深さ4mの連続壁で囲い拘束して地盤変状を抑制する工法です。
ベタ基礎またはMMBで蓋をすることで液状化による住宅の傾き被害を防ぎます。

住宅展示場での施工

モデルハウス外観

施工マシン

ランドガード施工後